



ひよこだより



都立葛飾ろう学校 乳幼児教育相談
令和5年10月2日 NO. 6

デフリンピックにむけて

10月に入り、やっと朝晩に秋らしい涼しさを感じられる季節になりました。さわやかな風が心地良く過ごしやすい時期です。どんぐりや色づく木の葉を拾い集めたり、コスモスや金木犀などを見つけたり、秋を探しに親子でのお散歩をぜひ楽しんでくださいね。



さて、今回はデフリンピックのお話です。Deaf（デフ）とは、英語で「聞こえない」を意味する言葉です。デフリンピックは、Deaf（デフ）+オリンピック、つまり国際的な「ろう者のためのオリンピック」のことです。オリンピック・パラリンピックと同様に4年に1度、夏季大会と冬季大会が開かれます。右上のマークはそのデフリンピックのマークです。このマークについて、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会ウェブサイトでは、以下のような説明が掲載されています。

ろう者のデザイナー、ラルフ・フェルナンデス（Ralph Fernandez）作で、国際的なろう者スポーツのコミュニティのポジティブでパワフルなシンボルです。「手話」「ろう文化」「結束と継続」といった強い要素がこのロゴマークに集約されています。

手の形が「OK」「GOOD」「GREAT」を意味するサインが重ねられており、それはまた「デフリンピック」の手話を表しています。さらに「結束」を表現しています。

ロゴマークの中央は「目」を表しており、ろう者が視覚中心の生活を営んでいることを示しています。また、赤色、青色、黄色、緑色はアジア太平洋、ヨーロッパ、全アメリカ、アフリカと4つの地域連合を表現しています。

初めてデフリンピックが開催されたのは、1924年パリ大会でした。そして次回のデフリンピックは、2025年の東京大会です。デフリンピック100周年の記念すべき大会であり、日本では初の開催となります。世界中から3000名近くの選手が集まり、東京大会では21の競技が行われます。選手たちは皆、聴力が55dB以上であることが条件とされ、競技中は補聴器等は付けずに試合を行います。どの競技もオリンピックと同様のルールで行われますが、音声などの合図が聞こえないため、各種目に応じてランプや旗等を活用した視覚的情報保障が工夫されています。どんな工夫がなされているのかに注目して、デフスポーツを観戦するのも面白いと思います。



2025年東京大会で行われる競技

陸上/サッカー/卓球/バレーボール/バスケットボール/ハンドボール/バドミントン/レスリング（フリースタイル）/レスリング（グレコローマン）/空手/柔道/テコンドー/水泳/テニス/ビーチバレー/自転車（ロード）/自転車（MTB）/ボウリング/ゴルフ/オリエンテーリング/射撃

2年後の東京大会に向けて準備が進められる中、9月初めにエンブレム決定のニュースが報道されました。右の図が、そのエンブレムです。9月3日（日）に、東京都パラスポーツトレーニングセンターにて行われた「2025年デフリンピック 大会エンブレムをえらぼう！～中高生によるエンブレムデザイン投票グループワーク・発表イベント～」において、都内中高生の投票により決定したものです。

このデザインの制作者多田伊吹さんは、国内で唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための国立大学である筑波技術大学の学生です。このエンブレムについて多田さんは、人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとしたこと、そしてデザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを桜の花びらをモチーフとして表現したと話されていました。



このエンブレムの制作と決定には、全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会の次の3つの考え方が反映されていました。

- ① きこえない人を制作の主役に
- ② 次代を担う若者や子供たちの参画
- ③ きこえない人ときこえる人が協働する

デフリンピックは、国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）により運営され、ろう者が主体となって行われる大会です。選手だけでなく、運営や準備もろう者が中心となり進められます。しかし、ろう者の方々だけで全てが行われるわけではありません。ろう者が主役でありながらも、多くの聞こえる人々がこの大会に関わっています。デフリンピックが目指すのは「誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現」と、それを「世界と未来につなげる大会」にすることです。

今回のグループワークのように、次世代を担う若い中高生たちが、聞こえる・聞こえないという互いの違いを理解し認め合い、デフリンピックについて共に考えエンブレムを決めたことは、目指す共生社会へ向けて意義のある取り組みだったと思います。この素敵なエンブレムが、これから都内のあちこちで見られるようになるのが楽しみです。そしてここに参加した中高生たちが、今後、聞こえない人と聞こえる人の架け橋になってくれることを期待したいと思います。

また、先の中高生たちのグループワークでは、音声を文字化するユニバーサルコミュニケーション技術も披露されました。「透明スクリーン感情字幕（仮称）」や「VUEVO（ビューボ）」という音声情報をディスプレイなどに字幕として表示する技術です。普通の字幕だけでなく、文字に色やフォントを凝らすことで話し手の気持ちの表現ができたり、話者の方向をマイクが認識して、声の方向ごとに会話内容をディスプレイに表示できたりするものです。聞こえない人と聞こえる人のコミュニケーションギャップを解消することをねらいとして開発されました。

このようなユニバーサルコミュニケーションの技術は、今後さらに開発が進み、デフリンピックの各競技会場でも目にするようになることでしょうか。こうした技術開発にも注目したいですね。

これから2年間の準備期間を経て開催されるデフリンピックを通じて、デフスポーツの魅力が日本そして世界へ広く知られるとともに、聴覚障害や手話についての理解がより一層社会へ浸透していくことを楽しみに、応援していきたいと思います。（担当：松澤）

